

地域交流を担う道づくり

山口大学教授 村田 秀一 さん



むらた ひでかず 1943年生まれ。69年九州大学工学部土木工学科卒。82年山口大学助教授。84年より現職。専門は基礎・土質工学

道路は、人やモノ、情報の流れを活発にし、地域を活性化させる社会基盤です。将来を見据え、どのようにネットワークをつないでいくかというビジョンが何より求められます。

多くの観光客が、大阪や広島の空港へやって来た場合に、バスやレンタカーを使って短時間で松江に到着できるように道路網の充実こそ、観光資源を活かす近道になります。また、

道路網の充実が

国際観光産業を活性化

高齢化が本格的に進み、労働人口が減り、経済状況がますます厳しくなる20年先、30年先の日本にとって、重要になるのは国際観光産業です。萩市をはじめ、15の地域が「夢街道ルネサンス」に認定されるなど、中国地方はゆたかな自然と歴史ある街並みの宝庫。海外から

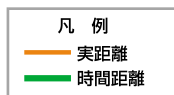
将来高速バスがさらに普及すると思われまふ。そのためには、高規格道路と二般道を連動させる必要があります。主要な空港や港湾についても、道路ネットワークでつながらな

ければ国土の有効活用になりません。道路が地域の実情にどこまで即しているか。都会と地方の道路がまったく同じ規格なのは、利便性でもコストでもデメリットを生みます。1車線と2車線を組み合わせ合わせた整備を行うなど、規制緩和によるローカル・ルールを積極的に導入する必要があります。

自然との調和や安全性にしっかりと配慮しつつ、問題のない範囲で道路の設備や仕様を多少抑えてでも、当面はネットワークの伸張を優先させるべきではないでしょうか。

道路は、生活スタイルにも密接に関わっています。ハード面での整備にとどまらず、労働時間や休暇の取り方を変えるなど、ソフト面を含めた幅広い視点から議論を重ねながら、豊かで充実した道づくりの実現を願っています。

●県庁間所要時間の比較



〈現 状〉



〈将来イメージ〉

※高規格幹線道路が全て整備された場合

